



2024年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年7月28日

上場会社名 ブロードメディア株式会社
コード番号 4347 URL <https://www.broadmedia.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 橋本 太郎

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理本部長 (氏名) 押尾 英明

TEL 03-6439-3983

四半期報告書提出予定日 2023年8月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第1四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	3,556	11.0	360	24.4	394	25.3	278	2.3
2023年3月期第1四半期	3,203	5.9	289	55.4	314	55.2	272	13.9

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 278百万円 (6.2%) 2023年3月期第1四半期 296百万円 (30.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	38.34	
2023年3月期第1四半期	37.00	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第1四半期	9,582	5,471	45.5	599.59
2023年3月期	9,948	5,450	43.2	591.40

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 4,357百万円 2023年3月期 4,300百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		0.00		30.00	30.00
2024年3月期					
2024年3月期(予想)		0.00		33.00	33.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,300	9.8	1,200	15.8	1,200	11.2	1,000	9.9	137.60

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期1Q	7,914,732 株	2023年3月期	7,914,732 株
期末自己株式数	2024年3月期1Q	647,903 株	2023年3月期	642,303 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期1Q	7,269,404 株	2023年3月期1Q	7,362,654 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因によって異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(セグメント情報等)	11
(収益認識関係)	13
(重要な後発事象)	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、当第1四半期連結累計期間より報告セグメントの区分を「教育」「スタジオ・コンテンツ」「放送」「技術」「その他」から、以下の理由により、新たに「教育」「メディアコンテンツ」「スタジオ・プロダクション」「放送」「技術」「その他」に変更いたしました。

- i) 「スタジオ・コンテンツ」を「メディアコンテンツ」「スタジオ・プロダクション」に分離
 - ii) 投資先であった(株)ポケットを連結子会社化し、「その他」にゲームパブリッシング事業として帰属
- なお、前第1四半期連結累計期間との比較、分析は、変更後のセグメントの区分に基づいております。

当第1四半期連結累計期間における売上高は、前年同期と比べ353,440千円(11.0%)増加し、3,556,927千円(前年同期は3,203,486千円)となりました。「メディアコンテンツ」「スタジオ・プロダクション」「放送」は減収となりましたが、「教育」「技術」「その他」が増収となったことにより、売上高は増加いたしました。

営業利益は、360,139千円(前年同期は289,408千円)となりました。「メディアコンテンツ」「スタジオ・プロダクション」「その他」が損失を計上し、「放送」が減益となったものの、「教育」「技術」が増益となったことが牽引し、増益となりました。

経常利益は、394,553千円(前年同期は314,916千円)となりました。営業利益が増加したこと等により、経常利益も増益となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、278,713千円(前年同期は272,391千円)となりました。繰延税金資産の取り崩しに伴う法人税等調整額92,063千円を計上した一方、経常利益が増益となったことから、親会社株主に帰属する四半期純利益も増益となりました。

(2023年6月30日現在)

セグメントの名称	事業内容	主な業務の内容	主な連結子会社
教育	通信制高校	・イーラーニングシステムを利用した単位制・広域通信制高校 「ルネサンス高等学校」「ルネサンス豊田高等学校」 「ルネサンス大阪高等学校」のルネサンス高等学校グループの運営	—
	日本語教育	・日本語研修・日本語教師養成講座を提供する「ルネサンス日本語学院」の運営	—
メディアコンテンツ	デジタルメディアサービス	・マルチデバイス向けコンテンツ配信サービス「クランクイン!ビデオ」「クランクイン!コミック」の提供 ・エンタメ・情報サイト「クランクイン!」「クランクイン!トレンド」の企画・運営	—
	コンテンツ販売事業	・テレビ放映権の販売、VOD権の販売、DVD/Blu-rayの販売 ・劇場映画の製作・配給	—
スタジオ・プロダクション	制作事業	・日本語字幕・吹替、難聴者向け字幕、視覚障害者向け音声解説、番組宣伝等の制作	—
放送	釣り専門チャンネル	・衛星基幹放送事業「BS釣りビジョン」の番組制作、放送及び、ケーブルテレビ局等への番組供給 ・映像の受託制作	(株)釣りビジョン
	釣りビジョン倶楽部	・マルチデバイス向け動画配信サービス「釣りビジョンVOD」等の提供	
技術	アカマイサービス	・コンテンツを最適な形で配信する「CDNサービス」、 「セキュリティサービス」の提供	—
	クラウドソリューション	・クラウドゲームサービスの提供 ・通信事業者へのクラウドゲームプラットフォーム提供及びゲーム事業者へのクラウドゲーム機能提供 ・スマートフォン向けクラウドゲームアプリの提供	Oy Gamecluster Ltd.
	デジタルシネマサービス	・ブロードメディア*CDN for theaterの提供、及び上映システム的设计・販売及びレンタル ・映画館へデジタル機材の導入を推進する配給・興行向けVPPサービスの提供	—

セグメントの名称	事業内容	主な業務の内容	主な連結子会社
技術	ホスピタリティ・ネットワーク	・ホテルの客室・会議室へのインターネットサービスの提供、機器の監視及び保守サービスの提供	—
	システム開発	・設計からソフトウェア開発、保守運用までワンストップのシステム開発を提供	システムデザイン開発㈱
	その他ソリューションサービス	・グローバルに展開されたプライベートネットワーク「Aryaka」等の提供 ・画像解析技術を駆使した小売業向け次世代型AIソリューション「Vue.ai」の提供 ・CM素材をオンラインで搬入する「CMオンラインサービス」の提供	—
その他	プロeスポーツ推進事業	・プロeスポーツチーム「CYCLOPS athlete gaming」の運営 ・eスポーツ関連イベントの企画・運営	ブロードメディアeスポーツ㈱
	ゲームパブリッシング事業	・Nintendo Switch向けのゲームソフトやVR専用ソフト等の企画・開発・販売および配信	㈱ポケット
	ネットワーク営業	・通信キャリア等の通信商材の拡販	—
全社費用	・ブロードメディア㈱本社の管理業務（人事総務、財務経理、法務等）及びグループ会社の統括管理 ・グループ全体の支援（生産性向上・効率化・ガバナンス強化等）	—	
持分法適用関連会社（注）	・全テレビ番組録画機の企画・製造・販売、及びテレビ番組ソーシャルサービスの運営	ガラボン㈱	

（注） 「持分法適用関連会社」に含まれる事業は、報告セグメントには含まれておりません。

当第1四半期連結累計期間におけるセグメントごとの売上高及び営業損益の概況は、以下のとおりです。

①教育

「教育」セグメントは、「ルネサンス高等学校」「ルネサンス豊田高等学校」「ルネサンス大阪高等学校」の広域通信制高校（ルネサンス高等学校グループ）の運営、日本語研修・日本語教師養成講座を提供する「ルネサンス日本語学院」の運営を行っております。

売上高は、前年同期と比べ328,824千円（34.2%）増加し、1,289,340千円（前年同期は960,515千円）、営業利益は475,314千円（前年同期は318,614千円）となりました。

ルネサンス高等学校グループの入学生徒数が8期連続で過去最高を更新したことにより、増収増益となりました。また、新たなキャンパスの開校や既存拠点の拡大により、eスポーツコースの受講生が順調に増加したことも増収増益に寄与いたしました。

②メディアコンテンツ

「メディアコンテンツ」セグメントは、マルチデバイス向けのコンテンツ配信サービス「クランクイン！ビデオ」「クランクイン！コミック」やエンタメ・情報サイト「クランクイン！」「クランクイン！トレンド」の企画・運営、映画やテレビドラマ、アニメ等映像作品の権利を買付け、テレビ局への番組放映権の販売や劇場配給、VOD権の販売、DVD/Blu-rayの販売等を行っております。

売上高は、前年同期と比べ15,774千円（8.9%）減少し、161,535千円（前年同期は177,309千円）、営業損益は41,640千円の損失（前年同期は69,365千円の損失）となりました。

デジタルメディアサービスは広告収入が増加に転じたことやコスト抑制効果により赤字幅が縮小いたしました。コンテンツ販売事業はテレビ向け番組販売が減少いたしました。その結果、「メディアコンテンツ」セグメントは減収となりましたが、営業損失は縮小いたしました。

③スタジオ・プロダクション

「スタジオ・プロダクション」セグメントは、海外の映画及びテレビ作品の日本語字幕・吹替制作、難聴者向け字幕制作、視覚障害者向け音声解説制作、番組宣伝等の制作を行っております。

売上高は、前年同期と比べ22,529千円（5.5%）減少し、384,819千円（前年同期は407,348千円）、営業損益は797千円の損失（前年同期は16,659千円の利益）となりました。

日本語字幕・吹替制作において、海外ドラマシリーズ等の売上計上シリーズ全話納品後の一括計上に変更となったことが影響し、減収となりました。また、人件費等のコストが増加したこと等から、営業損益は若干の損失となりました。

④放送

「放送」セグメントは、釣り専門番組「釣りビジョン」の制作、BS・CS放送及びケーブルテレビ局等あての番組供給事業、マルチデバイス向け動画配信サービス「釣りビジョンVOD」の視聴が可能な「釣りビジョン倶楽部」の提供を行っております。

売上高は、前年同期と比べ55,113千円(8.7%)減少し、579,644千円(前年同期は634,758千円)、営業利益は17,673千円(前年同期は78,567千円)となりました。

「釣りビジョン倶楽部」は売上が増加いたしました。一方で、「釣りビジョン」のスポンサー収入が減少したことや視聴料収入の減少傾向が続いている影響を補いきれず減収減益となりました。

⑤技術

「技術」セグメントは、アカマイサービス(CDNサービス、セキュリティサービス)、クラウドソリューション、デジタルシネマサービス、ホテルの客室・会議室へのインターネットサービス、システム開発、及びその他ソリューションサービスの提供を行っております。

売上高は、前年同期と比べ111,193千円(11.2%)増加し、1,101,073千円(前年同期は989,880千円)、営業利益は112,313千円(前年同期は108,692千円)となりました。

主力のアカマイサービスは既存顧客へのサービス提供の拡大が続いていること等により増収となりました。クラウドソリューションはアプリ販売が減少し、減収となりました。システム開発は機材販売や保守等が増加し、増収となったことに加え、グループ内の各事業のDX化に貢献しております。その結果、「技術」セグメントは増収増益となりました。

⑥その他

「その他」セグメントは、プロeスポーツチーム「CYCLOPS athlete gaming」の運営やeスポーツ関連イベントの企画・運営、Nintendo Switch向けのゲームソフトやVR専用ソフト等の企画・開発・販売および配信、通信キャリア等の通信商材の拡販が含まれております。なお、当第1四半期連結累計期間より(株)ポケットを子会社化し、「その他」セグメントに含めております。

売上高は、前年同期と比べ6,840千円(20.3%)増加し、40,514千円(前年同期は33,673千円)、営業損益は21,188千円の損失(前年同期は14,800千円の損失)となりました。

プロeスポーツ推進事業は、事業(賞金・配信収入・スポンサー収入等)が立ち上げ段階であるため、損失を計上いたしました。また、ゲームパブリッシング事業は新規タイトルの投入がなかったため損失を計上いたしました。その結果、「その他」セグメントは増収となったものの損失が拡大いたしました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(イ) 資産

流動資産は、BS放送に係る衛星利用料を前払いしたことで前払費用が増加した一方、現金及び預金が減少したこと等により、前期末に比べ393,350千円減少し、7,407,445千円となりました。固定資産は、通信制高校事業の拠点拡大に伴う資産の取得があったことや(株)ポケットの子会社化に伴いのれんが増加したこと等により前期末に比べ27,115千円増加し、2,175,221千円となりました。これらの結果、総資産は、前期末に比べ366,234千円減少し、9,582,667千円となりました。

(ロ) 負債

流動負債は、預り金が増加した一方、前受金や賞与引当金が減少したこと等により、前期末に比べ401,615千円減少し、3,856,721千円となりました。固定負債は、長期リース債務が減少した一方、長期未払金が増加したこと等により前期末に比べ14,254千円増加し、254,059千円となりました。これらの結果、負債合計は、前期末に比べ387,361千円減少し、4,110,781千円となりました。

(ハ) 純資産

配当金の支払いがあった一方、親会社株主に帰属する四半期純利益278,713千円を計上したこと等により、純資産合計は前期末に比べ21,126千円増加し、5,471,885千円となりました。これにより、自己資本比率は45.5%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期末における現金及び現金同等物の残高は、前期末に比べて519,740千円減少し、5,347,227千円となりました。

(イ) 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、マイナス224,840千円（前年同期はマイナス429,135千円）となりました。税金等調整前四半期純利益393,742千円を計上したことに加え、預り金が増加した一方で、前受金の減少や賞与の支払いがあったこと等により、営業活動によるキャッシュ・フローはマイナスとなりました。

(ロ) 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、通信制高校事業の拠点拡大に伴う固定資産の取得があったこと等から、マイナス63,939千円（前年同期はマイナス92,783千円）となりました。

(ハ) 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いに加え、リース債務の返済による支出があったこと等から、マイナス248,397千円（前年同期はマイナス206,867千円）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年5月9日に公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,869,218	5,347,227
受取手形及び売掛金	1,064,550	1,070,053
商品及び製品	9,934	11,048
仕掛品	140,546	220,027
原材料及び貯蔵品	4,139	7,832
番組勘定	300,600	295,644
その他	423,662	460,587
貸倒引当金	△11,857	△4,976
流動資産合計	7,800,795	7,407,445
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	305,170	339,206
工具、器具及び備品（純額）	190,059	198,058
その他（純額）	241,370	231,244
有形固定資産合計	736,600	768,508
無形固定資産		
のれん	113,898	225,369
その他	124,342	112,964
無形固定資産合計	238,240	338,333
投資その他の資産		
投資有価証券	121,230	98,255
破産更生債権等	545,286	545,668
その他	1,090,633	1,005,006
貸倒引当金	△583,886	△580,552
投資その他の資産合計	1,173,264	1,068,379
固定資産合計	2,148,106	2,175,221
資産合計	9,948,902	9,582,667

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	482,907	437,666
短期借入金	503,724	502,004
1年内償還予定の社債	65,000	65,000
未払法人税等	80,090	36,891
前受金	2,054,535	1,631,290
賞与引当金	283,513	88,629
その他	788,567	1,095,241
流動負債合計	4,258,337	3,856,721
固定負債		
社債	60,000	60,000
その他	179,804	194,059
固定負債合計	239,804	254,059
負債合計	4,498,142	4,110,781
純資産の部		
株主資本		
資本金	600,000	600,000
資本剰余金	15,207	15,207
利益剰余金	4,320,261	4,380,801
自己株式	△642,295	△647,322
株主資本合計	4,293,173	4,348,686
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	7,710	8,455
その他の包括利益累計額合計	7,710	8,455
非支配株主持分	1,149,875	1,114,743
純資産合計	5,450,759	5,471,885
負債純資産合計	9,948,902	9,582,667

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	3,203,486	3,556,927
売上原価	1,960,123	2,088,301
売上総利益	1,243,362	1,468,626
販売費及び一般管理費	953,954	1,108,487
営業利益	289,408	360,139
営業外収益		
受取利息	256	53
受取配当金	1	1
為替差益	9,413	16,716
貸倒引当金戻入額	4,733	6,749
持分法による投資利益	4,504	4,024
その他	9,613	9,557
営業外収益合計	28,522	37,103
営業外費用		
支払利息	2,946	2,687
その他	67	2
営業外費用合計	3,014	2,689
経常利益	314,916	394,553
特別損失		
減損損失	899	810
特別損失合計	899	810
税金等調整前四半期純利益	314,016	393,742
法人税、住民税及び事業税	10,405	24,211
法人税等調整額	8,032	92,063
法人税等合計	18,438	116,274
四半期純利益	295,578	277,467
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	23,187	△1,245
親会社株主に帰属する四半期純利益	272,391	278,713

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	295,578	277,467
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	993	744
その他の包括利益合計	993	744
四半期包括利益	296,571	278,212
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	273,384	279,457
非支配株主に係る四半期包括利益	23,187	△1,245

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	314,016	393,742
減価償却費	52,459	54,708
減損損失	899	810
のれん償却額	5,371	8,852
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△5,433	△10,214
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△203,344	△194,884
受取利息及び受取配当金	△258	△55
支払利息	2,946	2,687
持分法による投資損益 (△は益)	△4,504	△4,024
売上債権の増減額 (△は増加)	△42,607	△4,008
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△69,259	△79,116
仕入債務の増減額 (△は減少)	△63,413	△48,202
未払又は未収消費税等の増減額	△3,760	29,460
その他の資産・負債の増減額	△112,687	△297,955
その他	△14,501	△14,296
小計	△144,078	△162,498
利息及び配当金の受取額	1	1
利息の支払額	△2,341	△2,242
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△282,716	△60,101
営業活動によるキャッシュ・フロー	△429,135	△224,840
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	△92,088	△52,361
貸付けによる支出	△5,000	-
貸付金の回収による収入	3,750	3,750
その他	554	△15,327
投資活動によるキャッシュ・フロー	△92,783	△63,939
財務活動によるキャッシュ・フロー		
借入金の返済による支出	△3,081	△2,221
リース債務の返済による支出	△18,750	△18,113
自己株式の取得による支出	△3,614	△5,027
配当金の支払額	△142,898	△189,149
非支配株主への配当金の支払額	△38,523	△33,886
財務活動によるキャッシュ・フロー	△206,867	△248,397
現金及び現金同等物に係る換算差額	17,298	17,435
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△711,488	△519,740
現金及び現金同等物の期首残高	5,301,579	5,866,968
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	17,510	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,607,602	5,347,227

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項
 (継続企業の前提に関する注記)
 該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント							全社	合計
	教育	メディア コンテンツ	スタジオ・ プロダク ション	放送	技術	その他	計		
売上高	960,515	177,309	407,348	634,758	989,880	33,673	3,203,486	—	3,203,486
セグメント利益 又は損失(△)	318,614	△69,365	16,659	78,567	108,692	△14,800	438,368	△148,960	289,408

(注) セグメント利益又は損失(△)における「全社」は、報告セグメントに帰属しない共通費用であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
 (差異調整に関する事項)

報告セグメントの利益又は損失の合計額と四半期連結損益計算書の営業利益に差額があります。その差額の内容は報告セグメントに帰属しない共通の費用であり、グループ本社(ブロードメディア(株))の管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「技術」セグメントにおける事業用資産について、減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間において899千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント							全社	合計
	教育	メディア コンテンツ	スタジオ・ プロダク ション	放送	技術	その他	計		
売上高	1,289,340	161,535	384,819	579,644	1,101,073	40,514	3,556,927	—	3,556,927
セグメント利益 又は損失(△)	475,314	△41,640	△797	17,673	112,313	△21,188	541,675	△181,536	360,139

(注) セグメント利益又は損失(△)における「全社」は、報告セグメントに帰属しない共通費用であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

報告セグメントの利益又は損失の合計額と四半期連結損益計算書の営業利益に差額があります。その差額の内容は報告セグメントに帰属しない共通の費用であり、グループ本社(ブロードメディア(株))の管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「メディアコンテンツ」及び「技術」セグメントにおける事業用資産について、減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においてそれぞれ640千円及び169千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「その他」セグメントにおいて(株)ポケットの株式を取得したことにより、同社を連結子会社としました。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第1四半期連結累計期間において120,322千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループはこれまで、「教育」「スタジオ・コンテンツ」「放送」「技術」「その他」の5つのセグメントに事業を区分しておりましたが、当第1四半期連結累計期間より、「教育」「メディアコンテンツ」「スタジオ・プロダクション」「放送」「技術」「その他」の6つのセグメントに変更致しました。

(1) 「スタジオ・コンテンツ」を「メディアコンテンツ」「スタジオ・プロダクション」に分離

(2) 投資先であった株式会社ポケットを連結子会社化し、「その他」にゲームパブリッシング事業として帰属
なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後のセグメントの区分に基づき作成しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

(単位:千円)

	独自商製品等の ストック収益	独自商製品等の フロー収益	独自商製品以外 のストック収益	独自商製品以外 のフロー収益	外部顧客への 売上高
教育	960,515	-	-	-	960,515
メディアコンテンツ	-	45,339	110,211	21,759	177,309
スタジオ・プロダクション	-	407,348	-	-	407,348
放送	512,227	122,531	-	-	634,758
技術	90,782	105,934	789,868	3,295	989,880
アカマイサービス	-	-	771,728	-	771,728
その他	90,782	105,934	18,140	3,295	218,152
その他	7,714	20,169	-	5,789	33,673
合計	1,571,239	701,323	900,079	30,843	3,203,486

(注) 独自商製品等のストック収益とは、教育サービス・「放送」の視聴料・「技術」の企業向けクラウドサービス等、オリジナルサービスの提供等に伴う収益が該当し、原則継続的に積み上がる収益です。

独自商製品等のフロー収益とは、「スタジオ・プロダクション」や「放送」の制作・広告・スポンサーの収入等、オリジナルサービスの提供等に伴う収益が該当し、都度計上される収益です。

独自商製品以外のストック収益とは、「メディアコンテンツ」のコンテンツ配信や「技術」のアカマイサービス等、第三者が原権利を有している商製品の提供等に伴う収益が該当し、原則継続的に積み上がる収益です。

独自商製品以外のフロー収益とは、「メディアコンテンツ」の番組販売等、第三者が原権利を有している商製品の提供等に伴う収益が該当し、都度計上される収益です。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

(単位:千円)

	独自商製品等の ストック収益	独自商製品等の フロー収益	独自商製品以外 のストック収益	独自商製品以外 のフロー収益	外部顧客への 売上高
教育	1,289,340	-	-	-	1,289,340
メディアコンテンツ	-	42,768	107,569	11,196	161,535
スタジオ・プロダクション	-	384,819	-	-	384,819
放送	491,048	88,596	-	-	579,644
技術	91,697	93,438	908,297	7,640	1,101,073
アカマイサービス	-	-	882,055	-	882,055
その他	91,697	93,438	26,242	7,640	219,018
その他	6,513	28,840	-	5,159	40,514
合計	1,878,599	638,463	1,015,867	23,996	3,556,927

(注) 1 独自商製品等のストック収益とは、教育サービス・「放送」の視聴料・「技術」の企業向けクラウドサービス等、オリジナルサービスの提供等に伴う収益が該当し、原則継続的に積み上がる収益です。

独自商製品等のフロー収益とは、「スタジオ・プロダクション」や「放送」の制作・広告・スポンサーの収入等、オリジナルサービスの提供等に伴う収益が該当し、都度計上される収益です。

独自商製品以外のストック収益とは、「メディアコンテンツ」のコンテンツ配信や「技術」のアカマイサービス等、第三者が原権利を有している商製品の提供等に伴う収益が該当し、原則継続的に積み上がる収益です。

独自商製品以外のフロー収益とは、「メディアコンテンツ」の番組販売等、第三者が原権利を有している商製品の提供等に伴う収益が該当し、都度計上される収益です。

2 報告セグメント変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、セグメント情報等に記載のとおり報告セグメントの変更をおこなっております。

なお、前第1四半期連結累計期間の顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、変更後のセグメントの区分に基づき作成しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。